

元・気・に・な・る・情・報・誌
よみつこ

9

Vol.249
SEPTEMBER 2022

月刊

Yomi

NARA + YAMASHIRO + IGA

yomiっこ
クーポン付

39店



おは
ぎ
さん

自然と暮らす 染織作家／亀山 知彦さん

2022円の旅 今井町で、お地蔵さんと
ブックカフェをめぐる旅

新日本妖怪紀行 路傍の十王様

BOZE数珠つなぎ 上野山福祥寺／小池 陽人 師

伊賀もん HAKOBA／箱林 穂高さん

学問、スポーツ、芸術、生業...

奈良で輝く
スーパーシニアBIG5





「彼岸花の群生」

撮影場所／御所市榎原

📷 撮影者：吉田数政さん

山から登った朝陽が彼岸花を照らし、一面に広がる赤いジュウタンのような景色です。

目次フォト 大募集！

yomiっこ「巻頭ページ」にあなたの写真を掲載!!

奈良の風景や伝統行事、イベントなど、あなたのお気に入りの写真を毎月募集します。

11月を感じられる1枚を募集 締め切り:9月15日

①住所 ②氏名 ③電話番号 ④写真のタイトル ⑤説明文 ⑥撮影地を明記の上、画像をメール (info@ynl.co.jp) に送付ください。

*応募作品の中から編集部での審査の上、掲載を決定します。
Instagram「#ならっこぐらし」でも応募できます。

yomi

2022.9月号 vol.249

本誌掲載内容は8月4日現在の情報です。

「新型コロナウイルス感染症」の影響で、店舗の営業時間やイベント等の開催が変更になる場合があります。詳細は直接ご確認ください。

SHOP

14... SHOP☆SHOP

MAN

02... 自然と暮らす 染織作家／亀山 知彦さん

18... BOZE数珠つなぎ 上野山福祥寺／小池 陽人師

REGULARS 連載記事

16... 西の京病院 メディカル最前線！

17... トドの毒舌

20... 新日本妖怪紀行

22... タウンニュース

24... スポーツ大好き

「金剛禅総本山少林寺 木津道院」 「けはや道場」

26... 読者のお便りFREE TALK&ちさとの星占い

28... クロスワードパズル&まめちしき

29... インフォメーション

「MUSEUM」 「ART」 「PLAY」 「EVENT」

33... 美しいおもてなし

34... 2022円の旅 今井町で、お地藏さんとブックカフェをめぐる旅

36... 伊賀もん HAKOBA／箱林 穂高さん

38... 生活向上委員会

41... わんにゃん

42... プレゼント

43... かわいいな

44... こちら編集部

04

学問、スポーツ、芸術、生業...

奈良で輝く
スーパーシニアBIG5



10

おはぎさん



45

毎月使ってね！
yomiっこクーポン！



永代供養墓 生前予約できます

位牌壇 人形供養 宗派不問 檀家なし

光明山 阿弥陀寺 みねのてら

☎0742-45-2410

〒631-0027 奈良市学園赤松町2826-1 みねのてら 検索

LINEスタンプ発売中!

●ぽんわかスタンプ

●ビジネススタンプ

ゆるキャラ



株式会社 読売奈良ライフ

<https://ynl.co.jp>



奈良の総合情報サイト **Narakko** 毎月25日デジタルパンフレット配信!

<https://narakko.jp>

表紙写真／うめとおはぎ

本誌で掲載している価格表示は、原則的に税込みです(特に明示あるものを除く)



整経機／図案に沿って必要な本数のたて糸を必要な長さに整える機械



作業の様子／模様がある箇所は紺糸、ない部分は地糸を織り込む



大和紺の着物（葛城市歴史博物館 蔵）
白紺が有名になったのは明治以降で、江戸時代は紺紺が主流だった



かなおき
金箆／たて糸に通されたよこ糸の目を詰める作業に使用する櫛状の道具で、たて糸を絡まないようにする、よこ糸を強く織り込む、また箆羽（櫛の歯の部分）に1,200本の糸を1本1本通すことで織り幅を一定に保つといった役割がある



図案と紺糸

自宅の一室に作業場を構え、染め以外の工程はこちらで行う。道具は古道具屋や工房で不要となったものを譲り受けた。新調した整経機以外は1万円前後で全て揃えられたそう

「自分で図案を描き、糸を括り、染め、織り上げた時に、イメージ通りにたての糸とよこの糸がパチツとはまるととても気持ちいいんです。職人としては分業の方が合理的ですが、1人で全工程を行う方が作家としての面白さがありますね」。

こうした骨の折れる作業の末、復元に成功した亀山さんは2020年に大和郡山市の町家物語館で作品展を開催。同市の体験施設「箱本館 紺屋」で染めた井桁柄の反物やショールなどを展示した。

法が使われていた。しかし、一度廃絶した産物のため道具が現存しない。また織りに使う機も、織り手側から奥に向かって傾斜をつけた「大和機」が用いられるが、現存するのは民俗博物館の展示品のみ。一般的な織り機では木綿糸がよれやすく、柄合わせが難しいという。

「道具のほとんどは使われなくなったものを安く譲り受け、補強して使っています。現存しない道具や絶えてしまった技法については、別の道具で代用したり愛媛や京都で学んだ別の技法を取り入れたりしています」。板締め型の型がない染めの作業はすべて手作業で括る。糸は全部で1200本。たて糸であれば15分の長さがある。「括る作業だけで3週間ぐらいい反仕上げるのに2〜3か月はかかります」と話す。

「思っていた以上に反響があり、新聞やテレビなどかなりの数のメディアから取材を受けました」と驚いていた。今後は公募展にも作品を出展する予定。

「『大和紺』というものがまた日本中に知られる存在になれば」と亀山さん。庶民の暮らしに根付いた大和紺が再び日常空間に現れることを願う。



KAMEYAMA TOMOHIKO

1983年、斑鳩町生まれ。39歳。服飾系の専門学校を卒業後、西予市野村シルク博物館（愛媛県）の実習生として染織の全工程を学ぶ。2015年から京都・西陣の手織り工房に内弟子として勤め、2017年から大和紺の制作に着手。2020年に独立し、染織作家として活動している。

Instagram
@onchin.free.style



フェイスブック
@someori0220



公式サイトは
こちら



失われた名産 “大和紺”の復活へ



現在の太田高田市を中心に江戸時代から一大産地として栄え、後継者不足と洋装化で1970年頃に廃絶した「大和紺」。斑鳩町在住の染織作家・亀山知彦さんはその復元に取り組んでいる。

大和紺は江戸時代後期に御所町（現・御所市）の浅田松堂が松阪木綿をヒントに発明したとされ、幕末から昭和中期にかけて広く流通した綿織物。現在の太田高田、御所、橿原の各市周辺を生産拠点に、奈良の名産として一時はお伊勢参りの土産物としても喜ばれた。明治初期には化学染料の導入に伴う品質劣化で淘汰されたものの、のちに復興。白地に藍の柄が浮かぶ「白紺」を代名詞に人気を博したが、1960〜70年代にかけて次第に工場が減り、いつしか市場から姿を消した。

亀山さんは服飾の専門学校時代にテキスタイルに興味を持ち、愛媛県の西予市野村シルク博物館の研修生として染織の全工程を学んだ。その後は京都・西陣の

手織り工房で5年間、内弟子として修業し、2020年に作家として独立した。

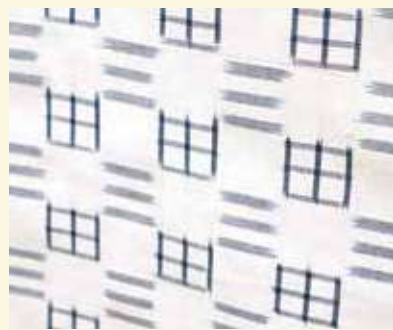
大和紺は染織の雑誌を通して出会った。かつて全国的に知られていた織物が現代では作られていないということに驚いたという。復元を決意したのは2017年。「県立民俗博物館を訪問した際に、偶然企画展で大和紺が展示されていて、この時に挑戦してみようと思いました」。奈良の風土を思わせる独特の風合いに魅了された。偶然是なる。当時、同館で学芸員を務めていた横山浩子さんがなんと大和紺の研究者だった。亀山さんは横山さんから大和紺の風合いから製法の全てを教わり、復元への挑戦を始めた。

復元への道のりは平坦ではなかった。一般的な紺紺の製作では糸を染めない部分を紐などで括って染め上げるが、「白紺」が代名詞だった大和紺は染めない範囲が広く、また模様も細かいため、「板締め」という、凹凸のある板の間に糸を通し、上から染料を流し込んで染める技



vol.172

染織作家
亀山 知彦さん



続きは電子書籍で見てね



Rakuten ブックス